

北国では、雪と共存？

除雪の在り方を考える

今年もド力雪

昨年、今年とド力雪が続いています。北国北海道、栗山に住んでいる私たちが、1月の降雪はすごかったですね。ド力雪で役場にも除雪に関する苦情や要望が、この冬だけで30件以上寄せられています。「昨年と除雪の仕方が違う」、「交差点の雪で車が出にくい」といった内容が多くを占めています。1月中旬までに行った排雪で、電話は少なくなっているようですが…。

どうして除排雪を？

除排雪は、地域の経済活動を続けていくため、通勤通学、買い物やレジャーなど私たちが普段通りの生活を維持するため、交通の安全を確保するために行われています。

除雪はいつどいついう基準で？

たくさん雪が降れば町の除雪が入り

除くことで快適に生活できるから行っています。それぞれのニーズにあった結果です。

「新しい公共」ってご存知ですか？

「新しい公共」という言葉をご存知ですか？これまでの一方的、管理的な公共サービスから、個々人の価値観やニーズに対応するため、官民の役割分担を見直すこと。民間企業や個人、NPOなどの民間セクターが重要な役割を担い、行政により独占的に担われてきた「公共」を、これからは市民・事業者・行政の協働によって「公共」を実現しようという考え方です。数多くある公共サービスの中でも「除雪」が一番あてはまるのではないのでしょうか？今までの画一的なサービスに満足できないニーズこそ、個々のニーズに合った取り組みが必要となります。

知恵・話し合い・そして資金も…

「駅前通り商店街」の排雪事業は、個々の共通したニーズをまとめ、150を超える個々が一致団結して取り組んだ良い例です。

ご家庭で除雪に難儀しているのであれば、隣近所で話してみるのも一手です。近くに空き地がある、地主に借

ます。もちろん町の除雪には出動の基準があります。降雪量10センチ。これを超えると町の除雪部隊は出動していきます。除雪車両は24台、人員は30人体制。午前1時に出動を判断し、待機していた人員が午前2時から7時を目途に約5時間かけて、総延長25.5キロメートルにも及ぶ町道312路線を除雪していきます。ちなみに歩道は午前3時から7時までの間に34路線、42キロメートルを除雪します。

町の除雪費はいかほどか？

栗山町のこの冬の除雪費はおよそ9400万円。この大きな金額が12月から3月までの4カ月間で消えていきます。昨冬の出動回数は17回。この冬も、1月26日までに14回出動しています。1回当たりの経費は約200万円。「もつと費用をかけるべきだ」と考えるか、「春には融けるのだから、これくらいが妥当」と考えるか、人によってまちまちかもしれません。

除雪の問題点とお願い

限られた機材と人員、そして貴重な予算を投入し行われる除雪作業。効率に進めるにはいくつかのお願いがあります。

① 間口除雪の協力

道路除雪は、除雪車が道路の左右に雪を寄せる作業です。各家庭の間口に残された雪の処理は、効率的な除雪のため各家庭でのご協力をお願いします

② 路上駐車はやめてください

除雪効果が半減するばかりか、他の地区の除雪にも影響します。住宅街では少ないですが、繁華街では結構見られます。やめましょう。

③ 車道への雪出しはやめてください

車が安全に通行できるように道路除雪をしています。雪を道路に出すこと、特に車道側の雪山の壁に置くことはとても危険です。除雪している人と車との接触事故を誘発しますし、道路側に雪山がせりだすと、車はS字走行を余儀なくされ、特に吹雪の時などは事故の原因になります。

④ 交差点や丁字路の角に雪を置かない

冬道を運転していて一番困るのは、見通しの効かないT字路から幹線に出るとき。右側に雪がなければ、右から来る車を確認でき安心です。幹線から小路に入るときも歩いていてる人を確認できます。また交差点の左折側に雪がなければ、前に右折車がいってもスムーズに通行できます。

⑤ 除雪と合わせて排雪もお願いします

雪を克服するのは難しいですが、雪と共存していかなければならないのは、北国に住む私たちの宿命です。みんなで協力して、冬の雪を楽しむながら乗り切るくらいの姿勢で臨みましょう。お互いさまの精神で！



⑥ 歩道に物などを置かないでください

ほかの町では、前日からのゴミ出しが除雪の妨げになっているようですが、栗山は大丈夫です。ただ、自家用車を歩道に乗り上げている事例があります。キッチンと敷地内に駐車してください。

いろいろな除雪が行われています

JR栗山駅から国道234号線までの「駅前通り商店街」では、商店主などが協力して費用を出し合い、定期的に排雪が行われています。また住宅街でも数戸が連携して排雪を委託している例がたくさんあります。もちろん商店街ではお客さんの車を店の前に止められるよう、住宅街では堆積した雪を取り



スキーに、ウインターフェスティバル一面の銀世界が栗っ子を楽しませます



りて雪を置かせてもらう。共同で排雪してもらい経費を少なく、などなど知恵を出し合い、話し合うことで「こんなことが出来そう！」というアイデアが出てきます。個々のニーズのためです。当然、費用負担も伴います。役場でも、皆さんのアイデアに対応した支援・協力をすることで、新しい除雪の在り方、栗山オリジナルの新しい公共が出来上がるのではないかと期待を寄せています。

ピバッド力雪

除雪のことを考えると頭の痛い雪ですが、この厄介ものの雪があるからこそ、子どもたちはスキーにそり遊び、北国ならではの楽しみを満喫できます。





町民の声を 町政に活かす

今年度対象 6 事業の評価結果を町長に報告

平成 22 年度の制度構築から、1 年以上にわたり活動を重ねてきた栗山町政策評価委員会（永池英彦委員長）が昨年 12 月 22 日、町第 5 次総合計画の中から選定した評価対象 6 事業についての評価をまとめ、椿原紀昭町長へ報告しました。自然教育やゴミの炭化処理、救急医療や防災といった“暮らしに密着した事業”が町民目線で評価されました。

平成 23 年度の評価結果報告書を椿原町長に手わたす永池英彦委員長ほか 4 名の政策評価委員の皆さん（12 月 22 日役場応接室）

制度の構築から 一年以上の活動

政策評価委員会は、平成 22 年度の制度構築から活動を開始し、酪農学園大学教授の河合博司アドバイザーの助言を受け、道内外の先進事例の研究や模擬評価の実施・検証など、栗山町にあった制度を検討しました。その結果、評価の基準に、町民と行政の情報共有や連携の状況をはかる「協働性の視点」を設けるなど、他市町の制度には見られない、町民視点を活かす本町ならではの評価制度となりました。

平成 23 年度は前年度構築した制度

に基づき、本格的な評価を実施しました。図 2 のとおり、事前学習会や担当課からの情報提供を受けながら、委員相互の活発な意見交換を経て、表 2 のとおり、今年度の対象 6 事業の評価を決定しました。

また、今年度の報告書には、実践を踏まえた評価制度の改善提案も盛り込まれ、町ではその提案を尊重し、さらなる制度充実に取り組めます。

図 2 政策評価委員会の主な活動経過



表 2 平成 23 年度対象事業の総合判定・コメントの要旨

評価対象事業	総合評価コメントのポイント	判定
雨煙別小学校 コカ・コーラ環境 ハウス拠点活用支援事業 ※雨煙別小学校の利用促進をととして 交流人口を拡大する事業	<ul style="list-style-type: none"> 設立経過を含め現状を町民に周知すべき。 小中学生や各種宿泊などに利用されているが、一般町民に対しては周知不足、多くの町民が利用できるような事業展開が必要。 歴史的価値を踏まえ、まちづくりのシンボルに。 	拡充して継続
廃棄物中間処理施設整備事業 ※埋め立てゴミの炭化処理を行い、循環型社会の形成と最終処分場の延命を図る事業	<ul style="list-style-type: none"> 最終処分場の延命策として必要性がある。 炭化処理の導入経緯から分別のルールまで、施設見学会や少人数での出張説明会を行うなど、町民にわかりやすく繰り返し周知する努力が必要。 	現状どおり継続
〔防災〕 食材等の調達・確保事業 ※災害時の食料・資材確保のため、備蓄や各機関との提携を行う事業	<ul style="list-style-type: none"> 備蓄量、備蓄方法、保管場所など、町民および関係機関の声を聞きながら計画の検討が必要。 家庭における備蓄量の目安、購入可能な場所など、町民の備蓄に対する啓発が必要。 	現状どおり継続
〔防災〕 防災訓練実施事業 ※災害を想定した総合防災訓練の実施、各地域ごとの防災訓練の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 冬期の震災発生など、具体的に災害を想定し、対策本部の立ち上げ、避難ルートの確認、災害時要援護者の支援方法などの検証につながる実践的な防災訓練の実施が必要。 各地域の特性を活かした訓練の実施が必要。 	拡充して継続
地域医療対策事業（救急医療） ※栗山赤十字病院が行う救急医療に対する支援（補助）	<ul style="list-style-type: none"> 法令などに基づく公平な救急医療の確保がされている。 他の医療機関との連携体制の検討が必要。 町民の理解・意識の啓発を前提に、経費の効率化の検討を。 	現状どおり継続
移住者ネットワーク整備 ※移住希望者を受け入れる「くりやま暮らし体験事業、PR 活動などの展開	<ul style="list-style-type: none"> 空き家などをうまく活用し、移住希望者に好印象を与えている。 事業に関する町民の理解が不足している。周知が必要。 移住促進に向けては、情報の共有を前提に、町民と行政が協力して PR・営業活動に努めなければならない。 移住者にとって魅力のあるまちづくりを。 	現状どおり継続

町民の身近な声を まちの仕事に活かす

町では平成 20 年度から、行政が実施する各事業の成果を評価・検証し、さらなる改善につなげる目的から政策評価事業を実施しています。年度中の半期を終えた 9 月から実施する事中評価を重視し、12 月以降の次年度予算編成に改善策を反映する取り組みを進めています。

その政策評価の取り組みに、より客観的な視点を取り入れ、町民の身近な声を町政に活かすため、平成 22 年度から新たに町民による外部評価の導入を進めてきました。

今年度、図 1 のとおり、町長による最終評価に先立ち、町民委員 5 名（表 1）で構成される政策評価委員会が、第 5 次総合計画における主要事業の中から町民の暮らしに密着した 6 事業を選択し、現状把握や議論を経て決定した評価の結果を、椿原町長に報告しました。

町長は「多くの町民の皆さんに参画していただき、ともに進めていくべき事業を評価していただいた。この評価を今後活かしていきたい。」と応えました。この後、町長評価を経て、昨年末から実施している、町の平成 24 年度予算編成に活かされることとなります。

図 1 町政策評価制度（事中評価）の流れ



表 1 町政策評価委員（※敬称略）

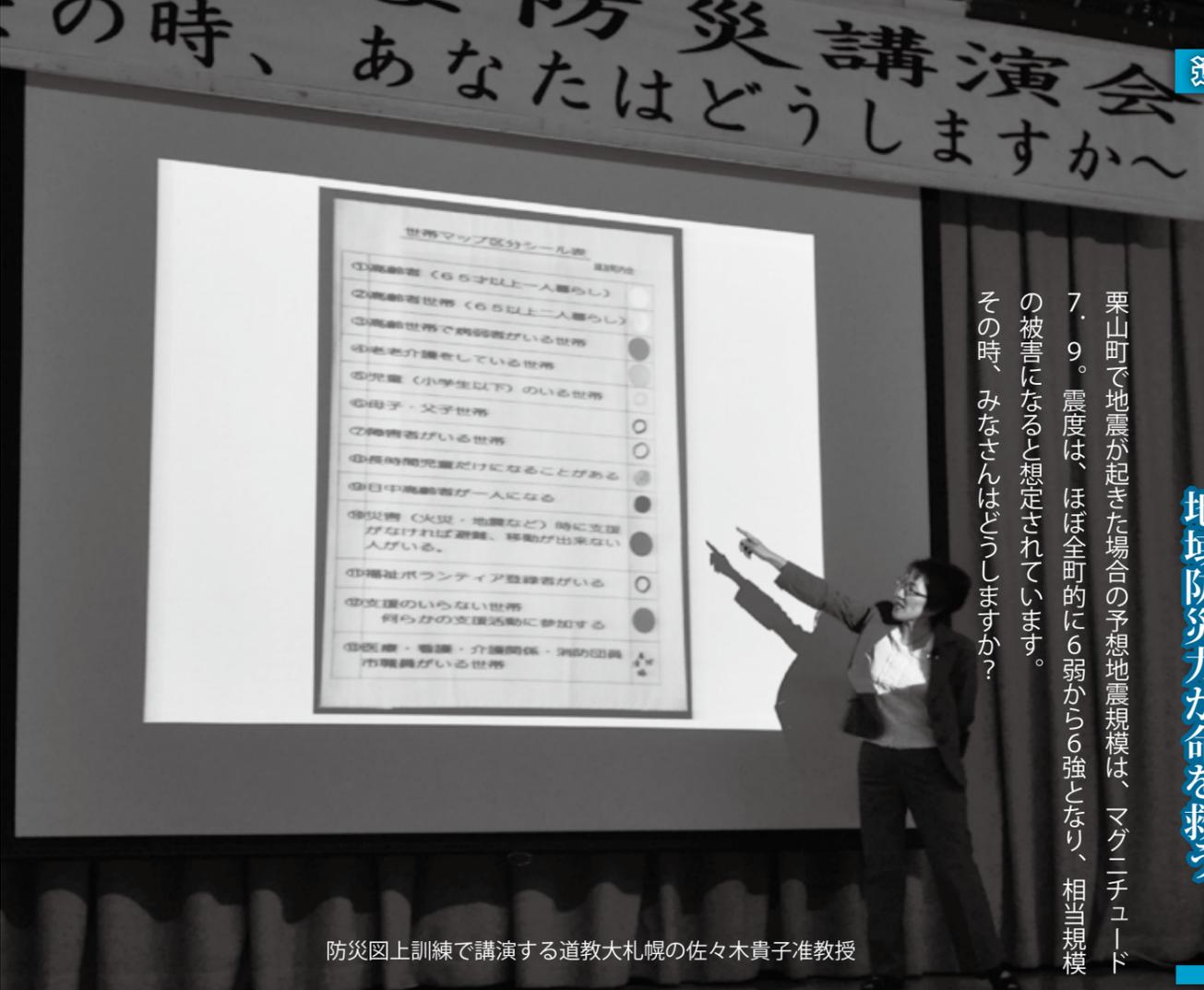
委員長	永池 英彦	湯 地
副委員長	坂口 由紀子	北学田
委員	大沼 英明	松風 2
委員	越前谷 徹	富 士
委員	田中 裕子	中 里

※酪農学園大学・河合博司教授をアドバイザーとし、助言を受けながら活動

備えよう！災害から命を守るために！④

地域防災力が命を救う

栗山町で地震が起きた場合の予想地震規模は、マグニチュード7.9。震度は、ほぼ全町的に6弱から6強となり、相当規模の被害になると想定されています。その時、みなさんはどうしますか？



防災図上訓練で講演する道教大札幌の佐々木貴子准教授

前回までで、家での備蓄品、地震を察知するエリアメール、避難所・避難場所、自分の身を守るすべ、などをお伝えしてきました。今回は、地震が起きて自分や家族の安否が確認できた後の話です。昨年行われた「防災図上訓練」での佐々木准教授の講演を中心に進めます。

自分の身を守れたあとは？

地震の揺れが収まり、自分は大丈夫、家族も無事が確認できたとしても。そのあと皆さんはどうしますか？
たとえばTVなどで情報を確認する、電気・水道などのライフラインを確認する、家の周りに破損がないか確認する、そんなところでしょうか？

ただ大切なことをお忘れではないですか？地域に自力では動けず救助を待っている人はいないでしょうか？

阪神大震災では、隣人による救助が28%

平成7年に起きた阪神大震災では、生き埋めや閉じ込められた人の34.9%が自力で脱出し、家族に助けられたのが31.9%、そして隣人に救助された方が28.1%にもなります。

緊急の課題！少子・高齢化

ご自宅のまわりに、災害時に自力では動けない要援護者（災害弱者）とない世帯

- ⑧ 長時間児童だけになることがある世帯
- ⑨ 日中、高齢者がひとりになる世帯
- ⑩ 災害（火災・地震など）時に支援がなければ避難、移動ができない人がいる世帯

また、災害時の支援活動に従事する世帯の確認もしています。

- ① 福祉ボランティア登録者がいる世帯
- ② 支援のいない世帯。何らかの支援活動に参加する世帯
- ③ 医療、看護、介護関係、消防団員、町職員がいる世帯

元町町内会では、日々要援護者の確認に努め、対象者の安否確認を行っています。

まちを育て、人を育てる

佐々木准教授は話されます。防災（減災）の視点から、このような取り組みを評価するのは簡単です。しかし、町内会などが協力して自主防災活動を続けることは、住民の中に連帯感を育て大きな副産物を生みだします。

例えば防犯や福祉、ゴミ問題・子育て・悪質商法防止など、住民に身近な生活環境問題の解決へとつながっています。「地域防災力の向上」は、結果として、地域の人たちの命を救うだけでなく、地域に住む人たちの生活環境の向上をはかるという効果が期待できるのです。

- る方はいませんか？例えば、
- ① 高齢者
- ② 障がいのある人
- ③ けが・病気の人の
- ④ 乳幼児のいる人
- ⑤ 外国人

一般的な傾向として、災害弱者の救出には次のような問題点があります。

- ◆ 避難行動の支援体制の不備
- ◆ 個人情報への過剰な反応
- ◆ 行政間の連携の不備

だが、どこに、どのようにいるのでしょうか？

「共助」としてすべきこと

ひとたび大規模な災害が発生したときに、災害の拡大を防ぐには、行政の対応（公助）だけでは限界があります。自分自身の身を自分の努力によって守る（自助）とともに、普段から顔を合わせている近隣の人たちが集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むこと（共助）が必要となります。

そして「公助」と「自助」と「共助」が有機的につながることで、全体的な被害の軽減を図ることができるのです。

「共助」の具体的な例としては、地域で協力し合う体制や活動を担う組織として、「自主防災組織」があげられます。

栗山での取り組みも始まっています

町内に9つある「まちづくり協議会」では防災や福祉、防犯や子育てといった地域問題に取り組んでいます。

平成20年11月に設立された「朝日湯地中央地域まちづくり協議会」では、要援護者台帳の整備を終え、世帯台帳や防犯マップ、子ども見守り隊の整備、防災学習会や総合防災訓練への参加など積極的に作業を進めています。

他の8協議会についても同様で、平成21年7月に設立された継立まちづくり協議会では自主防災訓練を昨年実施しました。栗山でも自主防災組織の活動が確実に動き始めています。

地域の防災力を高める

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を防止または軽減するための活動を行う組織です。

自主防災組織は、地域において「共助」の中核をなす組織であるため、町内会・自治会など、地域で生活環境を共有している住民により、地域の主体的な活動として結成・運営されることが望まれています。

自主防災組織の活動

自主防災組織の活動は次のようなことが考えられます。

- ・ 平時においては、防災訓練の実施、防災知識の啓発、防災巡視、資材機材などの共同購入など
- ・ 災害時においては、初期消火、住民の避難誘導、負傷者などの救出・救護、情報の収集・伝達、給食・給水、災害危険箇所などの巡視

「地域防災力」を向上させるためには、行政との連携・協力が必要です。保健・福祉、建設・土木、民生委員、社会福祉協議会などと協力しながら、①ハザードマップ（避難経路）の作成、②災害時要援護者名簿の作成などを行う必要があります。



防災図上訓練で地図に要援護世帯をマークする参加者たち。この後、世帯の状況が分からないという問題が露呈します。

- 函館市にある元町町内会が取り組んでいる取り組みを紹介します。
- 「MAP（地図）」から「WAP（ワップ）」へを合言葉に活動しています。WAPとは、Walking（歩く）とPatrol（パトロール）からの造語です。あらかじめ地図に落とし込んだ世帯の情報を、ウォーキング・パトロールで確認しています。
- ① 高齢者（65歳以上一人暮らし）
 - ② 高齢者世帯（65歳以上二人暮らし）
 - ③ 高齢世帯で病弱者がいる世帯
 - ④ 老老介護をしている世帯
 - ⑤ 児童（小学生以下）のいる世帯
 - ⑥ 母子・父子世帯
 - ⑦ 障がい者がいる世帯



昨年10月に実施された継立地区自主防災訓練の様子

成人宣言(全文)

今、この人生の節目である成人の日を迎えることが出来たのも、ひとえに今まで支えてくれた両親を始め、多くの方々、諸先輩方の励ましがあったからだと思います。



昨年は、3月11日に東日本大震災が起り、日本に大きな影響や被害を与えました。そんな中、注目されたのが、2011年の漢字である「絆」でした。

被災された方々を始め、いろいろな人々が日本復興のために助け合い、災害という試練を乗り越えようとしています。また福島原発事故により、私たちがいかに原発について無知であったかを思い知らされ、改めて日本の行く末を考えさせられました。

そんな中、なでしこJAPANがワールドカップで優勝するなど、いろいろな人々がいろいろな所で活躍し、日本を活気づけています。

これから私たちは、新成人として社会に仲間入ります。社会人として少しでも日本の復興のためにできることをする努力をしていきたいと思ひます。さらに自分自身の目標を持ち、それに向かって前進し、町の発展、そして日本の発展に向けて若い力を発揮し幅広い分野で活躍していく所存であります。

これまでに育んだ「絆」を大切に、またこれからも多くの「絆」をつくり上げ、助け合いながら生きていきたいと思ひます。

本日、私たちは成人を迎え、新しいステージの第一歩を踏み出します。これまで私たちを育ててくれた両親をはじめ、恩師の方々、そして栗山の人々の温かさに感謝し、活躍の場を広げ、命の大切さを忘れず、「ふるさとと栗山です。」と誇れる大人になることを、今ここに宣言します。



久々の再会、顔がほころぶ



男女とも仲良く、はいピース!



総司会という大役を務めた木藤芽維さんと佐藤里紗さん



町民憲章を朗読する旗 雅之さんと西川真史くん



昨年秋から準備を進めてきた実行委員メンバー

栗山町成人式

感謝・目標・参加・夢

平成24年の栗山町成人式が1月8日、カルチャープラザ「Eki」で開催され、晴れ着やスーツ姿の新成人が大人の第一歩を踏み出しました。

今年の新成人152人に対し、椿原紀昭町長は「皆さんを育ててくれた親御さんに感謝し、しっかりとした目標を持ち、社会のいろいろなものに参加し、それぞれの夢に向かって羽ばたいてください」と新成人を励ましました。

新成人代表の山下智祐さん武岡健介さんが力強く成人宣言をしました。

引き続き行われたアトラクションではビデオレターが上映され、中学時代の担任など8人がスクリーンに登場。当時の思い出や新成人に贈る言葉などが映し出されると、新成人たちから大きな歓声が起こっていました。

